



FIS CHILDREN RACE WHISTLER CUP 2010

日本チーム 結果報告書

NPO 法人ナスターレース協会

1 派遣概要

期 間 : 2010年4月7日(水)~4月13日(火)
場 所 : ウィスラーマウンテンスキースキー場 (カナダブリティッシュコロンビア州)
派遣選手数 : チルドレン1 (1997/1/1~1998/12/31 生まれ) 男子2名 女子2名
 チルドレン2 (1995/1/1~1996/12/31 生まれ) 男子3名 女子3名 計10名
派遣コーチ数 : 6名 (内ボランティアコーチ1名)、メディア1名 計7名
注) CSBA (カナディアン・スポーツ・ビジネス・アカデミー) スタッフより現地サポートをいただきました。
注) FISチルドレンレースとは

国際スキー連盟 (FIS) ではFISレースの対象年齢が15歳からとしており、FISチルドレンレースはFISレース参加年齢前の11歳から15歳未満までのチルドレンレーサーを対象とした国際レースで、肉体的な成長途中にある児童に対し、コース条件、ポールセット条件を考慮しつつチルドレンレーサーの健全な育成と国際交流を目的に実施しているカテゴリーです。その中で「ウィスラーカップ」はヨーロッパの「トッポリーノトロフィー」上位者も招待され、今年度は世界24カ国・全390名の参加により、4月9日~11日までウィスラースキー場 (カナダBC州) で開催され、まさに「ウィスラーカップ」は世界最高峰のチルドレン大会といえます。

2 派遣選手名

	氏名	生まれ年	住所	選考
<u>K1 (チルドレン1) 女子</u>				
1	片桐 成海	1997年	北海道旭川市	11th ジャパンカップ
2	荒井 美桜	1997年	北海道富良野市	11th ジャパンカップ
<u>K1 (チルドレン1) 男子</u>				
1	横山 竜太郎	1997年	北海道札幌市	11th ジャパンカップ
2	後藤 悠史	1997年	北海道士別市	11th ジャパンカップ
<u>K2 (チルドレン2) 女子</u>				
1	田村 彩華	1996年	秋田県大館市	2010 チャンピオンシップ
2	下村 美緒	1996年	愛知県大府市	11th ジャパンカップ
3	安藤 麻	1996年	北海道旭川市	11th ジャパンカップ
<u>K2 (チルドレン2) 男子</u>				
1	平野 亨	1995年	福島県南会津	2010 チャンピオンシップ
2	山越 涼平	1996年	岐阜県大野郡	11th ジャパンカップ
3	工藤 督宗	1995年	北海道空知郡	11th ジャパンカップ

3 引率コーチのプロフィール

1 帰山 聡夫 (NPO 法人ナスターレース協会 副理事長)

1962年6月25日生／日本体育大学スキー部入部後、プロスキーレーサーとして活躍、ヨーロッパ、アルゼンチンのレースを転戦し活躍、1996年ナスターレース協会事務局員としてナスターレースの普及とチルドレン関連の総合プロデュースを行う。普段は㈱ゴールドウインアクティブスタイル事業本部にて選手対策を行い、今回の派遣にあたってヘッドコーチを務めます。

2 平澤 岳 ('94 リレハメルオリンピック日本代表 '98 長野オリンピック日本代表)

1973年2月1日生／2回のオリンピックに出場、世界選手権1回出場、ワールドカップは5シーズンにわたり転戦し日本アルペンのエースとして活躍 2002年に現役を引退現在はスキークロスのプロデュースも行い昨年より NPO 法人ナスターレース協会の会長としても活躍しています。

3 湯谷 信二 (北海道スキー連盟 強化委員会副委員長)

1967年5月11日生／北海道砂川高等学校教諭、現在同高等学校スキー部監督として多くの生徒並びに選手の指導に従事されております。

現役選手時代は、全日本学生チャンピオンでの優勝や全日本選手権等多くの大会で活躍をされております。

4 馬場 相任 (福島県スキー連盟 会津南ブロック強化コーチ)

1982年7月28日生／会津南ブロック強化コーチ並びに、地元南郷 jr レーシングのコーチに従事され多くのジュニアレーサーの指導をされています。

5 小林 弘幸 (北海道スキー連盟 強化委員)

1979年4月8日生／北海道南富良野スキー場を拠点とし、南富良野 S J S 監督として主に小学生、中学生のチルドレンレーサーの指導をされております。

6 美浪 秀行 (北海道スキー連盟 旭川ジュニアアルペン代表)

1943年10月21日生／長年に渡り、旭川ジュニアアルペン代表として多くのスキー選手を育成、指導されております。

今回も、ボランティアコーチとして帯同をしていただきます。

7 松尾 潤(スキー専門誌 スキーグラフィック プレス及びカメラ)

今回も日本チームに同行し、日本選手及びウィスラーカップの取材を担当いたします。

その記事はノースランド出版『スキーグラフィック』に掲載されます。

4 2010 ウィスラーカップ大会スケジュール

4/7(水)	19:00	各国ナショナルチーム夕食(ウィスラー会議センター)
4/8(木)	7:00	朝食 (ラウンドハウスロッヂ)
	AM	トレーニング及びレースコースインスペクション
	12:00	昼食(ラウンドハウスロッヂ)
	PM	トレーニング及びレースコースインスペクション
	16:00	コーチミーティング及びゼッケンドロー(ウィスラー会議センター)
	19:00 ~	ウェルカムパーティ及びチーム集合写真撮影(ウィスラー会議センター)
	20:30	終了
4/9(金)	7:00	朝食(ラウンドハウスロッヂ)
		K 2 S G 競技 K 1 K B 競技
	12:00	昼食(ラウンドハウスロッヂ)
	17:00	表彰式及びパレード
	18:00	コーチミーティング(ウィスラー会議センター)
	19:00~	各国ナショナルチーム夕食(ウィスラー会議センター)
4/10(土)	7:00	朝食(ラウンドハウスロッヂ)
		K 1 ・ 2 女子 G S 競技 K 1 ・ 2 男子 S L 競技
	12:00	昼食(ラウンドハウスロッヂ)
	17:00	コーチミーティング(ウィスラー会議センター)
	19:00~	各国ナショナルチーム晩餐会(ウィスラー会議センター)
4/11(日)	7:00	朝食(ラウンドハウスロッヂ)
		K 1 ・ 2 男子 G S 競技 K 1 ・ 2 女子 S L 競技
	12:00	昼食(ラウンドハウスロッヂ)
		表彰式(ゴンドラ横ステージにて。時間は 17:30 頃を予定)
	18:30	各国ナショナルチーム夕食(ウィスラー会議センター)
4/12(月)	6:15	ウィスラー発
	7:30	朝食(各自)

5 帰山ヘッドコーチ全体レポート

09-10 シーズンのナスターレース協会の活動にご理解をいただき、また応援をしていただきました全ての皆様方にこの場をお借りして感謝とお礼を申し上げます。

今回で 10 回目を迎えましたウィスラーカップ派遣事業ですが、昨年に引き続き大変素晴らしい成績を残す事が出来ました。

24 ヶ国 390 人がエントリーをする中 C-1・C-2 クラスともに派遣選手一人一人が一生懸命に滑り、日本代表選手として活躍をしました。

特に、C-1 クラスの女子は S L 競技にて 1 位 2 位、更に国別対抗戦では C-1 クラスは総合優勝と言う結果でした。

また、現地 CSBA (カナディアン・スノー・ビジネスアカデミー) 中島代表のご好意により今回もミーティングルーム、チューンナップルームのご提供とスタッフのサポートをいただき、競技以外での充実した環境を整えていただけた事と、帯同をいただいた各コーチのサポートも好成績への要因であったと思います。

例年チルドレンを担当されていますコーチに帯同をお願いしておりましたが、今回は砂川高等学校の湯谷先生に帯同していただきました。

これは、アルペンスキーを通じチルドレン時代にどのような経験をし、どのようなモチベーションのチルドレン達が、高校生になって行くのかを把握していただければ、何かが変わってくるのではないかという思いでチルドレンの世界レベルを視察していただきました。

海外のコーチも不思議がっています、『日本チームは何故 C-1 では活躍するのに、C-2 では活躍出来ないのか?』なぜなのでしょう。

これを期に選手達には国内はもとより海外を見据えて活躍していただきたいと思います。

今後もコーチの方々、保護者の皆様方にもご協力とご理解をいただきましてアルペンスキーを通じて、子供達を大切に育てて行く環境作りが出来れば幸いに存じます。

以上



集合写真 (4/8)



ミーティング (4/9)



パレード (4/9)



パレード (4/9)



海外選手と (4/9)



K1-W KOMBI 3位 荒井(4/9)



K1-W SL 片桐 (4/11)



K2-M GS 山越(4/11)



GS コース(4/11)



K2-W GS 安藤(4/10)



表彰式(4/11)



K1-M S 5位 後藤(4/11)



K1-W SL 1位荒井 / 2位片桐(4/11)



K2-W SL 7位下村 / 8位安藤(4/11)



K1 総合優勝(4/11)



表彰式後(4/11)

《Whistler cup 2010 japan team results》

カテゴリ	種目	性別	順位	BIB	氏名	1st	2nd	Total Time	
k1	kombi	男子	6	6	後藤 悠史			00:39.05	
			13	24	横山 竜太郎			00:39.85	
		女子	3	16	荒井 美桜			00:43.33	
			-	3	片桐 成海			DNF	
		GS	男子	5	20	後藤 悠史			00:58.25
				14	7	横山 竜太郎			00:59.87
	女子		3	9	荒井 美桜			01:04.65	
			4	16	片桐 成海			01:06.09	
	SL	男子	11	13	後藤 悠史	33.68 (6)	35.80 (19)	01:09.48	
			-	25	横山 竜太郎	DNF	DNS		
		女子	1	12	荒井 美桜	34.81 (3)	38.69 (1)	01:13.50	
			2	3	片桐 成海	35.31 (4)	39.55 (2)	01:14.86	
k2	SG	男子	28	3	工藤 督宗			01:10.71	
			48	37	平野 亨			01:11.94	
			57	24	山越 涼平			01:12.77	
		女子	15	17	安藤 麻			01:11.24	
			25	31	下村 美緒			01:12.39	
			39	37	田村 彩華			01:13.40	
		GS	男子	11	16	工藤 督宗	53.14 (6)	51.24 (24)	01:44.38
				26	25	山越 涼平	55.68 (29)	50.75 (11)	01:46.43
				58	39	平野 亨	59.37 (78)	52.51 (43)	01:51.88
			女子	9	5	安藤 麻	56.42 (7)	53.27 (13)	01:49.69
				15	25	下村 美緒	58.87 (22)	53.05 (11)	01:51.92
				39	34	田村 彩華	1:00.32 (37)	55.63 (40)	01:55.95
	SL	男子	11	8	工藤 督宗	38.55 (14)	44.14 (17)	01:22.69	
			-	45	平野 亨	41.13 (37)	DNF		
			-	23	山越 涼平	44.45 (66)	DNF		
		女子	7	21	下村 美緒	48.75 (9)	45.35 (7)	01:34.10	
			8	7	安藤 麻	49.08 (10)	45.56 (9)	01:34.64	
			-	34	田村 彩華	52.15 (38)	DNF		

※詳細な成績に関しましては下記 URL にてご確認下さい

<http://www.whistlercup.com/>

2010 ウィスラーカップ派遣選手 大会終了後の感想



荒井美桜（K1（チルドレン1）女子）

今回は初めてウィスラーカップに出て、わからない事が沢山あったけど結果もよく、すごく将来にとっていい経験になりました。

自分にとって海外でのレースは夢でした。でも今回派遣が決まり、世界から多くの人々が集まり、私は日本の代表としてウィスラーカップに出場しました。ウィスラーにでると決まった時は、その日から「自分は日本代表として海外のレースに出場するんだ」と緊張感を持ち、当日まで練習をしてきました。

カナダに着くと1日目は大会バーンを滑りました。少し緊張感が欠けて次の日が大会という気持ちには切り替わらなくて焦った時もあったけど、他の国から来た選手は明るく、すごくにぎやかでした。

外人から声をかけられたり、自分から話に行ったりすごく楽しい1日目でした。

1日目のミーティングでは平澤岳さんが結果は気にしないで自分のベストを尽くせ、諦めないようにと選手達にたくさん言っていました。楽しむのが大切だったのですが、やっぱり結果が気になり、スタート前や前日にもものすごく緊張しました。

1日目は **kombi** であまり大会でも練習でもやったことがなく、セットも難しかったです。普段、私のコーチをしてくれる小林コーチと一緒にインスペクションをしていただき、注意する所や細かく難しい所をサポートしていただきました。

他に日本から一緒に行ったコーチ方にもアドバイスをもらって、スタートに向けて身体をアップさせたり、集中したりしていました。特に **kombi** は自分のスキー人生の中3回目で、ものすごく緊張しました。1本勝負なので気を引き締めて楽しもうと、でもケガだけはしないようにと思いました。

Kombi はゼッケン番号16番スタートでした。スタート直前は体がガッチガチで思うようにいかず、でも今シーズン注意されたことを思い出してスタートをしました。**Kombi** は1本目から振り幅があり、細かく、あふれた所で **SL** になるというセットで、結局 **kombi** は3位と思ってもよらない嬉しい結果で **kombi** は終了しました。

その日のミーティングでも平澤コーチは結果を気にするなと言っていました。

次の日は **GS** で、前の日に一度滑っていたので、あまり緊張はしませんでした。**GS** のスタートは結構斜度があり、**W** ストックを突かないと遅れるし、上からはすぐに角づけをしないと **DF** するコースでセットも難しかったです。

GS もインスペクションは小林コーチがサポートしてくれて、どの位置から入るとかいろいろ教えてくれました。

GS も1本勝負なので集中してレースに挑みました。結果は3位で、1日目の1位、2位の人は2日目の **GS** でも1位2位でした。それがすごく悔しくて3日目の **SL** のためにすごく悪いところを直そうと前日の夜に考えてました。

当日 **SL** のインスペクションの時に小林コーチに相談してみました。スルーの時の話とか壁の入り方とか話すと「今、練習でやってない事をしようとしても駄目だ」といってくれて、自分は他の国の人と、今シーズン練

習してきた実力で勝ってやる、と決めて1本目は攻めました。ゴールするといまいちゴールしてもスッキリしなく、あまり攻めてなくスピードに負けてお尻が落ちてしまいました。1本目は3位でした。また3位で上がれなかったのがすごく悔しかったです。「絶対に1位になる！」と思いました。そして1本目はそんなに緊張はしなかったけど、2本目は緊張してしまい、平澤岳さんに言うてみると「スタートする時に一番高く遠い山を見てすぐにパッと気持ちを入替えてスタートをしろ」と言うていただいて、すごく楽になりました。気持ちは楽になって体も温まり、いいコンディションでスタートが出来ました。でも4旗門目くらいで内倒して転びそうになったけど、あきらめずに上体を意識してWストックを突いてゴールしました。今までにない攻め方をしました。

結果は1位です。すごく嬉しくて泣きそうになりました。

今まで世界1位なんてとったことも感じたこともなかったからです。

これもスタートで応援してくれたコーチ、選手や仲間。サポートしてくれたコーチがいたからです。それにトレーナーさん、お父さん、お母さんのおかげでもあります。本当にありがとうございました。また来シーズンも頑張りますのでよろしくお祈りします。



片桐成海 (K1 (チルドレン1) 女子)

今回のウイスラーカップに出場して、とても沢山の体験をしました。

派遣が決まった時のこともウイスラーまでの練習も、どれも私にとって大切な物になりました。

その中でも驚いたことが2つあります。

1つは海外の人達は国を選ばず誰にでも話しかけてくれました。私はこんなに話しかけてくれるとは思っていませんでした。

2つ目は誰でもこの「ウイスラーカップ」を楽しんでいました。日本ではいつでも、集中することを忘れず、あまり緊張も出ていませんでした。

しかし大会1日目のkombiは楽しむどころか、緊張して体が震えてまったくいいほど集中が出来ませんでした。私は今あらためて気持ちを楽にすることは大切なことだと思いました。こんな気持ちになるのは初めてで、すごく自分でもびっくりしています。

そしてこのウイスラーカップ3レースは一日、一日が大事な出来事でした。

1日目のkombiはその緊張感のせいで体が動かず、自分の力を出す前にDFという結果で終わってしまいました。その日は大会が終わっても自分が失敗した時のことが頭の中にずっとありました。でも沢山のコーチから「次、がんばろう」と言われてなんとか気持ちを落ち着かせることができました。

2日目のGSでは、1日目のkombiのことを忘れて、GSだけに集中することができました。スタート前は身体を沢山動かして、滑りに使う力を出せる身体に出来て、しかも自分のことだけに集中することが出来ました。そして表彰台には上がれなかったけれど入賞の4位に入ることが出来ました。「明日はもっと高い所に上がる」私はそう思いながら、昨日と同じように自分の気持ちを落ち着かせることを考えていました。

3日目のSLは私が一番好きな種目で、このSLだけは1位を取りたいと思っていました。しかし1本目順位は4位。GSと同じ順位だったので「なんと言ってもまくる」私はそのことしか頭にありませんでした。2本目はいままでのがんばりを振りかえり、大会でも練習の滑りができました。

でもそれでも結果は2位。ゴールして2位と言われて、喜びも悔しさもありました。

でも表彰の時は喜びで一杯でした。

そして団体戦では初めての1位になって、悪いこともあれば嬉しいこともある大会でした。

このウィスラーカップでよい成績が取れたのも応援してくれたコーチ、お父さん、お母さん、妹、そしてチームの、みんながいたからだと思います。この気持ちを忘れないようにがんばります。

そして W 杯やオリンピックに出場して、世界で沢山活躍したいです。

そのためにこれからの大会も練習も、一本一本を大切に滑ります。



後藤悠史 (K1 (チルドレン1) 男子)

ぼくは外国が初めてで、すごくドキドキしていました。行ってみると英語がしゃべれなくても楽しかったです。

レースではとってもレベルが高いことを知りました。

3位以内にはいれなかったけど、今の自分の実力がわかれてよかったと思います。

シーズン初めは自分の納得いく滑りができませんでした。今度は絶対に勝ってやると思い、練習をして調子がどんどん上がってきて、今回このレースに出れて良かったです。

GS ではトップと 2 秒くらいつけられて、どこが駄目かコーチから聞くと「お尻が落ちている」と言われました。これからはお尻を上げて良いポジションに乗って滑れるように頑張りたいです。



横山竜太郎 (K1 (チルドレン1) 男子)

ぼくは 4 年生くらいからウィスラーカップに出ることが目標で、派遣が決まった時はすごく嬉しくて、次はウィスラーカップで結果を残したかったけど、初めての海外レースだったので緊張して 1 日目は完走したけど体が硬くて駄目だった。

2 日目は 1 日目の反省をして攻めたけど DF でかなり悔しかった。

けど 3 日目のため気持ちをしっかり切り替えてと岳さんが言っていた。

ベストを尽くすことを目標にスキーの手入れから寝る時間を考えて 3 日目に挑みました。結果はあまりよくなかったけど、ベストは尽くせたと思います。

外国人のトップ選手は上体がすごく安定していて無駄な動きが全くなかったのが印象に残っています。

1 回も入賞できなかったのが悔しかったけど、この悔しさを忘れずに来シーズン全中に出て 15 位以内を目標に夏トレを頑張っ、来シーズン頑張

りたいと思います。

また、まだ海外での生活、トレーナーさん、コーチからのアドバイスなど沢山勉強して、自分にとってとてもいい勉強になりました。これはコーチのおかげであり両親のおかげでもあります。コーチの方々やトレーナーさんのおかげでスタートの前、リラックスしてレースに挑めたり、このウィスラーカップに出られたのもコーチのおかげです。ありがとうございました。



下村美緒 (K2 (チルドレン2) 女子)

シーズン初めは、今シーズン自分はどんな滑りをしてどんな結果を出せるんだろう？という気持ちでシーズンを迎えました。

シーズン中はいろいろな練習をして、沢山の大会に出る中で調子がさがったり、結果がなかなか出せなくて気持ちが落ちていたこともありました。

しかし、ある大会で滑っていてなんかいつもと違う！と思う時がありました。その大会はゴール前で転んでしまったけど、何かをつかんだ気がしてその後の練習でその大会で感じた滑りを意識しました。

すると、Jr オリンピックでGS4位 (学年別2位)、SL3位 (学年別1位)と自分でもいいと思える結果が出せました。

Jr.オリンピックが終わり、次の大会が苗場のジャパンカップ (ウイスラーカップ派遣選考大会) でした。この大会は毎年結果が残せずにいたのですごく不安だったけどチームの仲間やコーチ、そして両親が「今、美緒は調子がいいからがんばって！」と応援されて気持ちがちょっと楽になりました。

そして本番、1日目はkombiでした。結果は2位。翌日のGSで2位に入ればウイスラーにいける！と思いがかりました。

しかし、スタートしてすぐの緩斜面で内倒するし、急斜では変なミスをするし、滑りは最悪でした。結果は9位くらいでもう駄目だと思ったら、なんと総合で2位に入り、ウイスラーにいけることになりました。

まだその時は時間がわからなかったけど周りのみんなに「頑張ってきてね」と言われてウイスラーでも頑張ろうと思いました。

ウイスラーへ行くまでの練習や大会では、まあまあいい滑りができていたと思います。

そして迎えたウイスラーカップ。1日練習をして、大会1種目は今回の大会が初めてのSGでした。ちょっとビビってたところもあって、結果は25位でした。でもSGは楽しいし、外国の選手の高速の強さに憧れたので来シーズンはしっかり練習して日本の大会にも出てみたいと思いました。

大会2日目はGS。1本目は特に自分のラインの悪さが出ていて良くなかったと思います。結果は15位でした。

そして最終種目はSL。SLもラインが悪かったです。結果は7位。入賞できて良かったと思いました。

しかし、外国のトップ選手との差を感じました。あの体格と滑り。すべてがすごかったです。

だから来シーズン少しでもその選手達に近づけるように頑張ります！

そして、今回の合宿で大会のサポートなどしてくれたコーチの皆さん、日本から応援してくれた家族、コーチ、チームの仲間、地元の皆さん、本当にありがとうございました。

来シーズンはもっと強く、速くなれるように頑張るので応援よろしくをお願いします。



安藤麻 (K2 (チルドレン2) 女子)

私は今回ウィスラーカップに出場するのは3回目で、シーズン始めからカナダに行きたいと思っていました。

私は今シーズン初め、あまり調子があがらず、膝もケガしたりと不調が続きました。

今年から中学生になったので、全国中学もあったので自信もなく不安だったけど、全道大会の少し前くらいから少しずつ調子があがってきて全道、全国とGSは優勝することが出来ました。

苗場のジャパンカップのちょっと前にイタリアに行っていたので、時差ボケとかが心配だったけど、コンビ、GSともに優勝することができてよかったです。

でもウィスラーに行ってみると、SG、GS、SL 全てトップの選手とのタイム差がありました。

全国優勝だけで満足しないで、世界の人に追いつきたいと思いました。

どんな時でも応援してくれたり、支えてくれた家族、コーチに感謝の気持ちを忘れずに、来年も良い結果が残せるように頑張りたいと思います。



田村彩華 (K2 (チルドレン2) 女子)

シーズン初めは北海道合宿が2回あり調子が良い状態で県予選を迎えることができました。でもアップ中ケガをして結果は悪く、全中というひとつの目標を果たすことができずその後の大会も調子が上がりません。

とても自分に自信がなかった時、東北決勝大会で優勝してウィスラーカップ出場が決まった時は、奇跡が起こった！と思いました。

その日はガスが濃くてポールをすぎてからじゃないと次のポールが見えなくて、インスペクションの重要性を改めて実感しました。そしてその日ちょうどイトコやおばあちゃんたちも来ていて、初めてのスキー場を見て、初めて私の滑りを見て、優勝したからすごく喜んでくれて、私もこの大会をいきっかけに頑張ろうって前向きに考えなおすことが出来ました。

地元に戻ってから地域の人達にたくさんの言葉をもらって初めて地元の人達がこんなにいたんだって思いました。そして自分が一人でスキーを

しているんじゃないんだなと思いました。そして地域の人達にも沢山感動を与えることが出来て良かったです。ウィスラーには、まず自分の滑りをして、自分を試してみたいという気持ちと、上手い選手の滑りを見て感じたことを来シーズンにつなげたいという気持ちで行きました。

大会では自分のすべりも出来ず、大会自体は悪い結果で終わってしまったけど、来シーズンにつながるものは沢山つかむことが出来たかなと思いました。

私が今こうしてウィスラーカップに来れているのも、スキーをする事ができているのも、応援している人がいるから続けてこれている、コーチやチームメイトがいるから強くなれて、一番は両親や家族に感謝したいです。来シーズンは今回の大会を活かして感謝の気持ちを忘れず、周りの人達から応援される選手になりたいです。そしてメンタル面でも技術面でも体力面でも向上することができたらいいなと思います。



山越涼平 (K2 (チルドレン2) 男子)

今回ウィスラーカップで感じたことは、世界のレベルの高さです。それはGSの1本目で4秒つけられたことです。すごく悔しかったです。でも2本目のタイムだけではトップと1.5秒差でした。それはそれで嬉しかったけど、悔しかったです。

今年は昨年と違ってヨーロッパなどからも来ていてとてもレベルが高かったです。でもそこでどこまで世界に通用するか分かって、良い経験だった。

外人の滑りは上下動をうまく使ってとても速かった。

僕はまだうまく上下動を使えないのでこれから頑張っていきたいです。

日本と外国のセットは全然違うということが分かった。

外国はとてもインターバルが短くて、振り幅があつてきつかったです。この外国のセットに対応するには、ターン中盤、一度フラットの時間を作ってからターン前半に入っていく。それをしないと細かいセットには

対応できないことが分かった。

来シーズンの目標は全中優勝と、もう一度ウィスラーに行って優勝したいです。

近い将来はワールドカップで優勝などをしたいです。



工藤督宗 (K2 (チルドレン2) 男子)

今回のウィスラーカップを体験して思ったことは、世界のレベルの高さを知りました。

今年は、昨年来なかったオーストリアの選手とかトッポリーノの上位入賞者が来て、今年はレベルが高い戦いだと思いました。けど、ぼくは嬉しかったです。

世界のトップレベルと戦うことができ、自分がどれだけ通用するかどうかを試せて。

GSLーぼくは1本目トップとコンマ0.9~1秒で6位で入賞圏内でトッポリーノの借りを返せるチャンスだと思いました。でも2本目は緊張しない僕が久しぶりに緊張しました。そして緩斜面でも無駄なエッジングをしてしまいタイムロスをし、緊張してコースを覚えていず最後急斜の入るところで方向を間違えてしまいました。結果ほぼ全てがタイムロスにつながりました。11位でした。

SLも11位でした。この悔しさを忘れず今後につなげていきたいです。

来シーズンは全中2連覇できるように努力したいです。

近い将来、今回戦ったメンバーとまた勝負したいです。最終目標はオリンピックで、まだ日本人が優勝していないから、初の表彰台の真ん中に立ちたいです。



平野亨 (K2 (チルドレン2) 男子)

自分はシーズン初めのころスラロームがとても不安でした。なぜかと言うと自分は逆手もろくにできないへたくそだったからです。ですが、ポール練習が始まるころになって、SLのポールセットに入ってやってみると、夏場にトレーニングをしたからか、普通に逆手ができるようになっていました。

そして中体連。去年全中に出場しているからか、プレッシャーがあり、優勝をのがしてしまいました。

東北中では7位に入賞しました。全中はGSはDF、SLはセカンドカットで2もれで、とても悔しい思いをしました。

そこからまた練習をつみ、チャンピオンシップ東北決勝大会。この日はとても霧がものすごくかかっている、1ゲート先しか見えないポールにつっこんで行きました。

自分は予選失敗して決勝大会のスタートが遅かったので、少しバンクがあって体勢を何度か崩しましたが、完走し、優勝することができました。その時「この結果に満足せずに次のステージに進め」と自分に言い聞かせました。

ちょうど良いタイミングでカナダのウィスラーカップに行く前に、県の強化合宿がありました。

高校生の人もいたので、高校生の滑りを見ることができ、良いイメージでカナダに来ることが出来ました。高校の先生に「結果は出そうと思わなくていいから思い切り滑ってこい」と言われました。そして地域の方々に応援され、がんばらなきゃなと思いました。

カナダでの一戦目はSG。SGには自信がありましたが、やはり世界は広く、格の差を思い知らされました。二戦目はSL。一本目はなんとか完走し、一本目の時点で37位でした。二本目もモチベーションを高めて良いイメージを持って臨みました。最初の急斜のところからリズムを作らずに突っ込みすぎて、カメラマンのいるところよりはるか手前で片半してしまいました。これが現時点での実力だと思っています。この悔しさを胸に三戦目のGSに臨みました。

一本目、いつも通りいこうとスタートすると、今までにない感覚で、こんな滑りで日本代表でいいのかと思い、ゴールしてから冷静になりよく考えてみると、世界をなめていた気がします。

僕はとても後悔しました。本当にダサイやつだと思いました。二本目。今シーズンのラストレース。今シーズンの練習の全てをこの一戦にぶつけました。あとどうしても腰が落ちてしまうので、腰の位置を確認して滑りました。二本目はまずまずでしたが、自分の今の滑りでは世界のレーサーには通用しないということが分かったので、夏場のトレーニングに力をいれ、進化してスキー界に戻ってきたいです。

誰からも応援され、感謝の気持ちがしっかり持てて、人間性のしっかりしたスキーヤーになりたいです。